

こども 部会

部会長 府川裕一 副部会長 丸山志野 執行委員 塩手奈緒子
 執行委員 藤村妙子 執行委員 宮澤俊樹 執行委員 金井隆純
 執行委員 伊藤史佳 療育C 市川智美 療育C 安川健治
 運営委員会担当者 木下香織 ケアマネ連絡会担当者 熊谷恵子・本藤雅奈美
 長野市障害福祉課担当者 池田匠

1、年間テーマ

2、部会等の開催状況

日時		会場	人数 (人)	部会のテーマ	主な内容
月	日				
7	15	Web 会議	48 名	放課後等デイサービス 事業所連絡会	児童支援について・家庭支援について 学校などの他機関との連携について・ 送迎について・勤務体制について・ 研修等について(意見交換)
9	30	Web 会議	45 名	学齢期支援連携会議	学校と放課後等デイサービスとの連携の仕
11	24	Web 会議	20 名	児童発達支援事業所連絡会	家庭支援について・園への移行について・ 他機関との連携について・事業所の役割に ついて・就学相談・学校への移行について
1	18	Web 会議	67 名	乳幼児期支援連携会議	就学相談の流れ(学校教育課より) 就学移行の流れに乗せるための支援 (保育・幼稚園課より) 情報提供を受けてグループワーク

3、機関紙、冊子、アンケート調査・行事など報告書

・情報ツウーの発行

→今年度は医ケア委員会と連携し医ケア児等の資源について情報を掲載

4、課題について

(1)主な検討課題

学齢期 :家庭と学校と放課後等デイサービスの連携について

乳幼児期:就学移行におけるつなぎや連携について

(2)検討の目的と結果(現状)

学齢期 :多くの教職員の参加があり、お互いを知り連携していくことの大切さを共有することができた。しかし全体に浸透するまでには課題も多く感じられ、継続した取り組みが必要だと感じた。

乳幼児期:就学移行に関する園や事業所の取り組みを知ることができた。就学に関する内容であったため、学校の参加があると良いという意見が参加した方から多く寄せられたため、次年度への課題としていきたい。

(3)引き続き検討が必要とされる課題

学齢期 :お互いの役割分担の中で児童生徒、家族支援ができるよう継続して連携していく。関係機関の放デイへ役割の理解の浸透。

乳幼児期:就学時、送り出す側(園と事業所等)と受け入れ側(学校)が情報交換等ができる場の設定。共通理解を図る場の設定。

(4)部会の運営体制について

放課後等デイサービス事業所連絡会→学齢期支援連携会議

児童発達支援事業所連絡会→乳幼児期支援連携会議

の形を3年積み上げてきた。その都度、各方面から年数回の継続を求める声があり安定した運営体制を整えるため現在の体制を継続していきたい

令和4年度 事業報告

5、総括(1年間を振り返って)

コロナ禍3年目ということもあり、連絡会や連携会議は対面での実施希望の声が上がる中全面的にオンラインで実施。特に保育園や学校関係者からはオンライン開催は有難いとの声を頂いているため、今後の開催方法についても適宜検討していきたい。

執行部体制については大きく変わらず安定した活動を行えた。特に執行委員の方々が熱い思いで取り組んで下さり、月一回以上のペースで執行部で集まり入念に準備を行うことができた。

学齢期においても乳幼児期においても、課題は大きく残っている。しかし子ども部会の活動があったからこそ見えてきた課題や可能性があるため、次のステップに上がれるよう、努めていきたい。特に今年度は「つなぎの支援」での課題が大きく見られた。学齢期・乳幼児期の関係機関との連携を図るべく、全体での支援連携会議の実施や、事業所と関係機関との勉強会など、新たな試みの実施を目指しながらさらによい地域への取り組みを考えていきたい。